

# 令和 7 年度 第 1 回 雲南市地域公共交通協議会(議事録)

日時：令和 7 年 6 月 26 日 (木)

14 時 00 分～15 時 20 分

場所：雲南市役所 2 階 201・202 会議室

## 1. 開会

## 2. 協議会委員報告及び委嘱状の交付について

新委員：杉村委員(中国運輸局島根運輸支局)、

北村委員(中国地方整備局松江国道事務所頓原維持出張所)、南場委員(一畑バス株式会社)、

平井委員(大東高校校長)、岡委員(三刀屋高校校長)

## 3. 会長あいさつ

## 4. 報告

### (1)令和 6 年度 市民バス等の利用状況について(市民バス・デマンド型乗合タクシー「だんだんタクシー」)

事務局より資料 No.1 に基づき説明

意見なし

## 5. 議題

### (1)令和 6 年度 事業報告について

事務局より資料 No.2 に基づき説明

意見なし・承認

### (2)令和 7 年度 事業計画(案)について

事務局より資料 No.3 に基づき説明

委員：事業内に「雲南市地域公共交通再編実施計画」とあるが、現行の地域公共交通利便増進実施計画と同一のものであるか。

事務局：再編実施計画は、現行の地域公共交通計画(策定当初は「網形成計画」)の策定にあわせ、令和 3 年度に策定したものである。現行計画の期間内においては、本再編実施計画に基づき実施する。

・承認

### (3)大東地域バス「大東松江乃木線」の運行状況について

事務局より資料 No.4 に基づき説明

意見なし・承認

### (4)地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

申請にかかる「生活交通確保維持改善計画」策定について

事務局より資料 No. 5 に基づき説明

意見なし・承認

(5)市民バスルート及びバス停の乗降場所の変更について

事務局より資料 No. 6 に基づき説明

意見なし・承認

(6)雲南市地域公共交通計画の策定について

事務局より資料 No. 7 に基づき説明

委員:6月24日(火)に開催された地域円卓会議に出席した。会議では町単位でのグループ分けが行われたが、同一の町内であっても、町部と農村部とでは意識や課題に差があることを実感した。今後は、地域ごとに分けて実施することで、より意見が出やすいように思う。

委員:自分も地域円卓会議に出席した。加茂町においては、現時点で特段の課題はないとの結論であったが、町によって状況に差があることが分かった。いずれは自分たちの自主組織においても共助交通の問題が顕在化する可能性があり、早期に取り組む必要があると感じた。近日中に役員会が予定されているため、本件について報告したいと考えている。

委員:鍋山地区では、休眠預金を活用したことにより、何とか「よりそい号」の運行が実現した。令和7年度以降は地域自主組織による運行を予定しているが、今後の運行については雲南市との協議が必要であると考えている。現在、住民からの小規模な要望には対応できているものの、実際には、1回当たり300円の運賃では、運行を継続することが困難というのが実情である。一部の地域では、交通に関する取り組みは現状必要ないとの意見もみられたが、市内には30の地域自主組織が存在しており、各組織が可能な範囲で努力していくことが望ましいと考えている。ただし、自主組織の努力だけでは限界もあるため、行政の支援を得ながら今後も継続的に取り組んでいきたい。

委員:吉田町は、吉田大東線の発地点に位置しており、市役所や病院等へ向かうには利便性が高い。一方で、町内のバス停までの移動手段がない住民もおり、交通手段の確保が課題となっている。また、吉田だんだんバスについては、希望するスケジュールにダイヤが合わないとの声もあり、利用しづらい状況にあると考えられる。地域円卓会議においては、他地区のデマンド交通の事例として知夫村の取り組みが紹介されていた。今後は、地域自主組織の中でも、各地域に適した運行形態について検討していく必要があると感じた。

委員:基本的な考えとして、だんだんタクシーは、通院や買い物といった一つの目的のための外出手段として位置付けられている。目的地間の移動については、一般乗用タクシーの活用を促すことが望ましいと考えている。なお、目的地間の移動手段としては、過去に市内でグリーンスローモビリティの実証実験が実施され、一定の利用者から好評を得ていた。しかし、安全性に関する課題があったことから、運行は終了したものと認識している。

委員:三刀屋高校の生徒については、JR木次駅から三刀屋バスセンターまでの区間においてバスを利用する者が多い。また、JR木次線(定期券)利用促進事業の効果により、バス利用者が増加したと認識している。朝の通学時間帯にはバスが混雑する状況も見られるが、生徒にとっては、バス停に多数の人が集まることに慣れておらず、当初は混乱も生じた。しかしながら、生徒指導を含め、関係者の協力を得ながら対応を進めることができおり、感謝している。

委員:今年度より、JR出雲大東駅から通学に活用できるバスを1日あたり2便運行いただいております。1便あたり約20名の利用がある。朝の運行についてはご配慮いただいております。大変感謝しております。生徒は下校時には徒歩でJR出雲大東駅まで移動しているが、可能であれば下校便の運行についても検討いただけると助かる。

委員：県内では、担い手不足を背景にバス路線の廃止等が相次いでいる状況にある。県においては、新たな担い手確保に向けた事業に取り組んでいるところ。今後も関係機関からの意見をいただきながら、連携して取り組んでいきたい。

委員：国土交通省においては、「交通空白」解消本部が立ち上げられ、今年度からの3年間を集中対策期間と位置付け、交通空白の解消に取り組んでいる。雲南市においては、次期公共交通計画の策定ポイントとして「総働」の言葉があった。まちづくりの一環として交通を捉え、交通がなければまちの発展は困難であるとの認識のもと、取り組みを進めていただきたい。島根運輸支局としては、補助金制度や他地域の先進事例等の情報提供を通じて、必要な支援を行っていきたいと考えている。

・承認

#### 4. その他

- JR木次線の利用促進について

事務局より資料 No. 8 に基づき説明

意見なし

～閉会～